

科目名	心理的アセスメントに関する理論と実践	副題	
担当者	寺沢 英理子・筒井 順子		
開講期	前期	単位数	2単位
		配当年次	1年次
授業の概要	この授業では、心理支援専門職にとって必須の知識・技術となる心理的アセスメントの理論と実践的適用について学ぶ。具体的には心理的アセスメントの意義と理論的背景、心理に関する相談、助言、指導等での適切なアセスメント活動である。アセスメントに使用される各種心理検査、面接技法を目的に合わせて組み合わせること（バッテリー化）とその実施、結果の解釈と報告書の作成まで独力で出来ることが求められる。		
授業のねらい・到達目標	1. 学部で身に着けた各種心理検査、面接の基本的技法のスキルアップを目標とする。 2. 当該事例に合わせて検査バッテリーを組み、実施後の結果の整理と報告書の作成ができる。		
授業の方法・授業計画			
1	心理実践場面における心理アセスメントの役割と進め方		
2	心理アセスメントに有用な情報及びその把握の手法について		
3	心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について		
4	心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義及び限界について		
5	心理検査の適性及び実施方法を学び、正しく実施し、検査結果を解釈することについて		
6	生育歴等の情報、行動観察及び心理検査の結果等を統合させて、包括的に解釈をするためのスキル		
7	適切に記録、報告、振り返り等を行うために		
8	報告書のまとめ方		
9	心理アセスメントから治療介入への移行について		
10	保健医療分野における事例の心理アセスメント		
11	福祉分野における事例の心理アセスメント		
12	教育分野における事例の心理アセスメント		
13	司法・犯罪分野における事例の心理アセスメント		
14	産業・労働分野における事例の心理アセスメント		
15	ケース検討会議での発表の仕方とチーム・アプローチのあり方を理解する		
期末			
授業に関する連絡	毎回、終了前10分で授業についての質問、コメントを求める。他の受講生と疑問点の解消を共有し、次回に臨む。		
評価方法及び評価基準	実践分野を任意の一つ選択し、想定事例を考え（20%）、心理アセスメントの手続きの作成（30%）、実施、結果の解釈（30%）から、介入手続き（ゴール）設定（20%）までをまとめたレポートを作成し提出する。それらを基に評価する。		
事前・事後学習の内容	実践実習に係わる授業のため、事前・事後の内容は相互に関連することとなる。事前学習では、前回の授業内容を十分復習して授業に臨み、事後学習では一連のアセスメントの流れの中での現在の位置づけを確認し、次回に臨むこととする。		
履修上の注意	全講義に出席のこと。		
テキスト	以下の参考文献を中心に適宜指示する。		
参考文献	八木亜紀子（著）「相談援助者の記録の書き方—短時間で適切な内容を表現するテクニック」、中央法規出版、2012年 近藤直司（著）「医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技法を高めるハンドブック（第2版）」、明石出版、2015年 小海宏之（著）「神経心理学的アセスメント・ハンドブック」、金剛出版、2015年 津川律子（著）「精神科臨床における心理アセスメント入門」、西村書店、2009年 「臨床精神医学」編集委員会（編）「精神科臨床評価マニュアル（2016年版）」、アークメディア、2016年		

科目名	心の健康教育に関する理論と実践	副題	
担当者	伊東 秀幸		
開講期	後期	単位数	2単位 配当年次 1年次
授業の概要	予防的な心理支援として重要となる心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。心の健康教育における公認心理師の役割、心の健康教育を支える理論、心の健康教育の内容と方法について理解を深め、実践出来ることが求められる。		
授業のねらい・到達目標	対象者のニーズをアセスメントし、適切な内容、方法による心の健康教育を実施できる。広く地域住民に対して、メディアを活用するなどした、心の健康に関する広報普及活動が展開できる。		
授業の方法・授業計画			
1	こころの健康とは何か		
2	健康教育とは何か		
3	こころの健康教育を支える理論 1 カウンセリング理論		
4	こころの健康教育を支える理論 2 コミュニティ心理学		
5	こころの健康教育を支える理論 3 学校心理学		
6	こころの健康教育の内容1 自己との関わりを考える		
7	こころの健康教育の内容2 他者・集団との関わりを考える		
8	こころの健康教育の内容3 学習・キャリアの課題		
9	こころの健康教育の内容4 心身の健康とのつきあい		
10	こころの健康教育の内容5 危機対処・レジリエンス		
11	こころの健康教育の方法 1 プログラムの組み立て		
12	こころの健康教育の方法 2 講義型のプログラム		
13	こころの健康教育の方法 3 演習型のプログラム		
14	こころの健康教育の方法 4 メディアを使った広報活動		
15	こころの健康教育の実際		
期末			
授業に関する連絡	本授業では、前半は主に講義形式、後半は演習形式での授業を行う。		
評価方法及び評価基準	授業ごとに担当者を決め発表を行う、その発表の内容（50%）とレポートの内容（50%）で評価する。		
事前・事後学習の内容	授業ごとの発表担当者はもとより、履修者全員、事前学習を十分行うこと。事後は、授業の内容をまとめておくこと。		
履修上の注意	履修者は、積極的に授業に参加すること。		
テキスト	特になし、授業ごとにプリントを配布する。		
参考文献	『公衆衛生学』 医歯薬出版 『健康のための行動変容』 『こころの健康を支えるストレスとの向き合い方』		

科目名	心理支援に関する理論と実践	副題	
担当者	伊東 正裕・新井 彩加		
開講期	後期	単位数	2単位 配当年次 1年次
授業の概要	心に関する相談、助言、指導その他の援助である心理支援に関する理論と実践を学ぶ。心理支援に関する代表的な理論と方法を理解し心理支援場面に応用出来ること、支援対象者の特性や状況に応じ支援方法の柔軟な選択・調整をおこなえるようになることが求められる。		
授業のねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理支援に関する力動論に基づく心理療法の理論と方法を理解し説明出来る ・心理支援に関する行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法を理解し説明出来る ・その他の主要な心理療法の理論と方法を理解し説明出来る ・心理に関する相談・助言・指導等の活動に上記理論と方法を応用出来る ・心理支援を要する人々の特性や状況に応じて心理支援方法を適切に選択・調整出来る 		
授業の方法・授業計画			
1	授業オリエンテーション：授業概要、到達目標、授業の進め方		
2	心理支援に関する力動論：フロイト世代		
3	心理支援に関する力動論：フロイト以降		
4	心理支援に関する行動論・認知論：行動療法		
5	心理支援に関する行動論・認知論：認知療法		
6	心理支援に関する行動論・認知論：認知行動療法		
7	心理支援に関するその他の理論・方法：パーソン・センタード、家族療法、内観法等		
8	心理支援に関する相談・助言・指導等への応用：力同論		
9	心理支援に関する相談・助言・指導等への応用：行動論・認知論		
10	心理支援に関する相談・助言・指導等への応用：その他の理論・方法		
11	心理支援対象者の特性・状況と力同論との関係		
12	心理支援対象者の特性・状況と行動論・認知論との関係		
13	心理支援対象者の特性・状況とその他の理論・方法との関係		
14	心理支援をおこなう者に共通な態度、考え方		
15	全体のまとめ		
期末	レポート		
授業に関する連絡	「でんでんばん」の通知機能を用いておこなう。		
評価方法及び評価基準	期末レポート（60%）、授業中での課題等への取り組み（40%）で総合的に判断する。		
事前・事後学習の内容	毎回の授業で具体的に説明する。事前・事後合わせて2時間の学習を要する。		
履修上の注意			
テキスト	特に使用しない。授業中に資料を配布する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		

科目名	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践		副題		
担当者	渡邊 由己				
開講期	後期	単位数	2単位	配当年次	1年次
授業の概要	<p>家族・集団・地域社会の特徴を理解し、これらと心との関係を考慮した心理支援が出来ることは共生社会実現を志向する心理専門職に必須の知識と技法である。この授業では家族心理学やコミュニティ心理学の知見を応用しながら家族理解、集団理解、地域理解の理論とこれらに存在する様々な問題、および問題に対する支援、家族や地域の人々、多職種での連携と協働による支援それぞれの理論と方法、実践について学ぶ。</p>				
授業のねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と構造と機能を理解し家族関係の課題とその克服に関する心理学的理論と知見を説明出来る ・家族関係の課題解決に対して心理支援の理論と技法を適切に導入出来る ・地域社会や集団（コミュニティ）の構造と機能を理解しそれらの課題とその克服に関する心理学的理論と知見を説明出来る ・地域社会や集団（コミュニティ）の課題解決に対して心理支援の理論と技法を適切に導入出来る 				
1	授業オリエンテーション				
2	家族の構造と機能、現代家族の特徴				
3	家族関係と精神的健康、				
4	家族関係のアセスメント法				
5	家族の心理支援における代表的な介入技法				
6	地域社会と集団（コミュニティ）の構造と機能、現代地域社会の特徴と課題				
7	地域や集団（コミュニティ）のアセスメント法				
8	地域や集団（コミュニティ）の支援プログラム				
9	支援プログラムの評価理論				
10	支援プログラムの実際例と課題				
11	コンサルテーションとコラボレーション				
12	地域や集団支援チーム形成に関する心理学的理論				
13	地域や集団支援チームによる活動の実際と課題				
14	地域や集団（コミュニティ）への心理支援専門職の基本的態度と倫理				
15	まとめと発展				
期末					
授業に関する連絡	授業は講義形式を主体とするが、アセスメントに関する部分は演習も取り入れる。学生への連絡が必要な場合はポータルサイトででんばんを通しておこなう。				
評価方法及び評価基準	最終レポート（50%）、何度か課す小レポート（30%）、授業中の発言等取組の積極性（20%）で総合的に評価する。				
事前・事後学習の内容	毎回の授業で配布する資料に基づき、予習・復習内容を具体的に指示する。				
履修上の注意	心理支援者としてこの授業がどう役立つのか、修士論文に役立つことはないだろうかなど、常に問題意識を持って積極的に関与されたい。				
テキスト	テキストは特に指定しない。授業中に資料を配布する。				
参考文献					

科目名	保健医療分野に関する理論と支援の展開	副題	
担当者	伊東秀幸		
開講期	前期	単位数	2単位 配当年次 1年次
授業の概要	<p>テーマは保健医療分野に関わる公認心理師の実践である。心の問題で不適応に陥っている人、心理的葛藤や家族関係・対人関係の困難から臨床心理学的な症状や問題を呈している人、慢性疾患を抱えた人、災害・犯罪被害等で心理的ケアが必要な人、心神喪失のため犯罪に至ってしまった人への臨床心理学的支援に関わる理論の獲得と、病院・診療所（精神科、心療内科等）、保健所、精神保健センター等における、心理査定、心理療法に加え、デイケアやコンサルテーションなどの活動内容、プロセスについて理解を深める。</p>		
授業のねらい・到達目標	<p>保健医療分野の機関において、公認心理師として適切な実践ができるようになるため、機関と心理学的知識と技術を結びつけられるようにすることが授業の目的であり、以下の5点を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療機関の機能を説明できる。 ・保健医療機関の対象者を説明できる。 ・保健医療機関の公認心理師の役割を説明できる。 ・保健医療機関に必要な知識、技術を説明できる。 ・対象者への適切な支援を考察できる。 		
授業の方法・授業計画			
1	授業の進め方について		
2	保健医療分野の機関について		
3	精神科病院における公認心理師の役割		
4	精神科病院の事例検討		
5	精神科クリニックにおける公認心理師の役割		
6	精神科クリニックの事例検討		
7	精神科デイケアにおける公認心理師の役割		
8	精神科デイケアの事例検討		
9	医療観察病棟における公認心理師の役割		
10	医療観察病棟の事例検討		
11	保健所・保健センターにおける公認心理師の役割		
12	保健所・保健センターの事例検討		
13	精神保健福祉センターにおける公認心理師の役割		
14	精神保健福祉センターの事例検討		
15	コンサルテーションの方法		
期末			
授業に関する連絡	本授業では、講義と事例検討によって理解を深める。		
評価方法及び評価基準	レポート（70%）、発言や討議への参加度（30%）		
事前・事後学習の内容	事前としては、各回のテーマについて文献などにより下調べをしておくこと。 事後としては、授業内で配布したプリント等により、知識を整理しておくこと。		
履修上の注意	履修者は、積極的に授業に参加すること。		
テキスト	特になし、授業ごとにプリントを配布する。		
参考文献	<p>「精神医学的面接」みすず書房 「解決のための面接技法」金剛出版</p>		

科目名	教育分野に関する理論と支援の展開	副題	
担当者	渡邊 由己		
開講期	前期	単位数	2単位 配当年次 1年次
授業の概要	<p>テーマは教育分野に関わる公認心理師の実践である。学校内での対人関係困難等の学校不適応、不登校傾向、学業困難やいじめ、ハラスメント、ひきこもり等の問題に関わる理論の獲得と、心理支援の展開について、スクールカウンセリングから大学学生相談まで含めて理解する。さらに学校内の相談室、教育センター、各種教育相談機関等において、本人との面接、保護者との面接、教員へのコンサルテーション、必要に応じた他機関との連携支援活動等、教育分野に関する広汎な支援の実践についても理解を深める。</p>		
授業のねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場をめぐる臨床心理学的課題について理解し説明出来る ・いじめ、ハラスメントに対する心理支援の実践を理解し説明出来る ・学業困難、進路未決定に対する心理支援の実践を理解し説明出来る。 ・不登校、ひきこもりに対する心理支援の実践を理解し説明出来る ・心理支援における教員や保護者、他機関との連携に関する実践を理解し説明出来る 		
授業の方法・授業計画			
1	授業オリエンテーション：授業概要、到達目標、授業の進め方		
2	教育現場における臨床心理学的課題		
3	いじめをめぐる心理支援の実践		
4	キャンパス・ハラスメントをめぐる心理支援の実践		
5	生徒の学業困難に関する心理支援の実践		
6	大学生の学習支援に関する心理支援の実践		
7	進路選択に関連した心理支援の実践		
8	大学生のキャリア探索をめぐる心理支援の実践		
9	不登校生徒に対する心理支援の実践		
10	青年期ひきこもりに対する心理支援の実践		
11	スクールカウンセリング、学生相談の役割と実際		
12	教育センターなど外部教育支援機関における心理支援の役割と実際		
13	教員や保護者との連携・協働による心理支援の実践		
14	教育分野における心理支援の課題		
15	全体のまとめ		
期末	レポート		
授業に関する連絡	「でんでんぱん」の通知機能を利用しておこなう。		
評価方法及び評価基準	期末レポート（60%）、授業中の課題等への取り組み（40%）で総合的に判断する。		
事前・事後学習の内容	毎回の授業で具体的に説明する。事前・事後合わせて2時間の学習を求める。		
履修上の注意			
テキスト	特に使用しない。授業中に資料を配布する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		

科目名	福祉分野に関する理論と支援の展開	副題	
担当者	小山 望		
開講期	後期	単位数	2単位
		配当年次	1年次
授業の概要	<p>テーマは福祉分野に関わる公認心理師の実践である。子どもをめぐる様々な問題、虐待、非行、障害児・者、DV被害、高齢者の問題など、福祉に関わる幅広い領域に関する臨床心理学的理論の獲得と、児童相談所、療育施設、心身障害者福祉センター、障害者作業所、女性相談センター、老人福祉施設等における支援活動の実際について理解を深める。</p>		
授業のねらい・到達目標	<p>1. 日常生活を営む上で生じる困難、障害を緩和、解決するための社会制度、福祉サービスにおける心理職の専門性と役割を理解し、説明できる。 2. 各領域における支援のための理論の理解と具体的支援の方法を身につけ、説明できる。</p>		
授業の方法・授業計画			
1	共生社会に向けた福祉分野における公認心理師の役割について		
2	子ども・家庭福祉分野の理論と支援①：児童福祉法と児童相談所の仕事		
3	子ども・家庭福祉分野の理論と支援②：社会的擁護と児童福祉施設		
4	子ども・家庭福祉分野の理論と支援③：子育て支援と地域児童福祉		
5	子ども・家庭福祉分野の理論と支援④：児童虐待への対応		
6	障害児・者福祉分野の理解と支援①：障害児支援 ICFの概念		
7	障害児・者福祉分野の理解と支援②：障害者支援とインクルーシブ教育		
8	障害児・者福祉分野の理解と支援③：障害者就労の現状と心理職の役割		
9	高齢者福祉分野の理解と支援①：少子超高齢社会の現状と問題		
10	高齢者福祉分野の理解と支援②：高齢者介入技法に係わる心理職の役割		
11	被害者支援分野の理論と支援①：DV被害者支援における心理職の役割		
12	被害者支援分野の理論と支援②：犯罪被害者支援における心理職の役割		
13	被害者支援分野の理論と支援③：災害被害者支援における心理職の役割		
14	地域福祉分野の理論と展開：子どもの貧困、ひきこもりへの対応（コミュニティケア）における心理職の役割		
15	共生社会における福祉分野の多職種連携のあり方について		
期末			
授業に関する連絡	毎回、最後の10分で授業についての質問、コメントを求める。他の受講生との共有をはかり、理解を深めることとする。		
評価方法及び評価基準	期末レポート（60%）と授業中の課題への取り組み（40%）で総合的な評価とする。		
事前・事後学習の内容	毎回の授業で具体的に説明する。事前・事後と合わせて2時間の学習を求める		
履修上の注意	連続性があるので全講義に出席のこと。		
テキスト	各回のテーマに合わせ以下の参考文献を中心に適宜指示する。		
参考文献	<p>小山望他監修 これからの共生社会を考える 多様性を受容するインクルーシブな社会づくり 福村出版 中島健一編 福祉心理学 遠見書房 柿澤敏文編 障害児心理学 北大路書房 小西聖子（著）「犯罪被害者のメンタルヘルス」、誠信書房、2008年</p>		

科目名	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	副題	
担当者	松嶋 祐子		
開講期	前期	単位数	2単位 配当年次 2年次
授業の概要	<p>テーマは司法・犯罪分野にわたる公認心理師の実践である。未成年の矯正・社会適応に向けて、また、保護観察下の人や成人受刑者の社会適応・再犯防止に向けた臨床心理学的理論の獲得と、家庭裁判所、少年鑑別所、刑務所、拘置所、少年院、保護観察所、児童自立支援施設、警察関係相談機関等さまざまな専門的相談機関における実践的支援活動のプロセスを理解する。</p>		
授業のねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・司法・犯罪分野における臨床心理学的課題について理解し説明が出来る ・司法・犯罪分野における心理支援専門職の具体的な実践内容について理解し説明出来る。 ・司法・犯罪分野における様々な機関で実践される心理支援のプロセスについて理解し説明出来る 		
授業の方法・授業計画			
1	授業オリエンテーション：授業概要、到達目標、授業の進め方		
2	非行と矯正における心理的背景		
3	非行と矯正における心理支援の内容		
4	非行と矯正における心理支援の連携・協働		
5	社会適応と再犯防止に関する心理的背景		
6	社会適応と再犯防止における心理支援の役割		
7	社会適応と再犯防止における心理支援の内容		
8	社会適応と再犯防止における心理支援の連携・協働		
9	少年鑑別所や少年院における心理支援専門職の実践		
10	刑務所における心理支援の実際		
11	薬物等依存や嗜癖に対する心理支援の実際		
12	自助グループや自立支援施設における心理支援の実際		
13	犯罪被害者支援における心理支援の実際		
14	司法・犯罪分野における心理支援の課題		
15	全体のまとめ		
期末	レポート		
授業に関する連絡	「でんでんぱん」の通知機能を利用しておこなう。		
評価方法及び評価基準	期末レポート（60%）、授業中の課題等への取り組み（40%）で総合的に判断する。		
事前・事後学習の内容	毎回の授業で具体的に説明する。事前・事後合わせて2時間の学習を求める。		
履修上の注意			
テキスト	特に使用しない。授業中に資料を配布する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		

科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	副題	
担当者	伊東 正裕		
開講期	後期	単位数	2単位
		配当年次	1年次
授業の概要	<p>テーマは産業・労働分野における公認心理師の実践である。国や地方公共団体、企業内でのメンタルヘルス向上のため行われている臨床心理学的支援、コンサルテーション等に関わる理論の獲得と、企業内相談室、企業内健康管理センター、安全保健センター、ハローワーク、障害者職業センター等において行われている職業相談活動、具体的には職業への適性を巡る問題、発達障害を抱える人への臨床心理学的支援活動の実際とプロセスを理解する。</p>		
授業のねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の産業・労働分野における臨床心理学的課題について理解し説明が出来る ・産業・労働分野における心理支援専門職の具体的な実践内容について理解し説明出来る。 ・就職や転職、企業内キャリア形成に関わる心理支援について理解し説明出来る 		
授業の方法・授業計画			
1	授業オリエンテーション：授業概要、到達目標、授業の進め方		
2	産業・労働分野における臨床心理学的問題の変遷		
3	産業・労働分野における現代的な臨床心理学的課題		
4	企業内健康管理部門における心理支援専門職の機能と役割		
5	企業内健康管理部門における心理支援専門職の実践活動の実際		
6	外部EAP機関における心理支援専門職の機能と役割		
7	外部EAP機関における心理支援専門職の実践活動の実際		
8	就職・転職支援機関における心理支援専門職の機能と役割		
9	就職・転職支援機関における心理支援専門職の実践活動の実際		
10	障がい者就労支援における心理支援専門職の機能と役割		
11	障がい者就労支援における心理支援専門職の実践活動の実際		
12	ひきこもり・ホームレス支援における心理支援専門職の機能と役割		
13	ひきこもり・ホームレス支援における心理支援専門職の実践活動の実際		
14	産業・労働分野における心理支援専門職の課題		
15	全体のまとめ		
期末	レポート		
授業に関する連絡	でんでんばんを通しておこなう。		
評価方法及び評価基準	期末レポート（60%）、授業中の課題等への取り組み（40%）		
事前・事後学習の内容	毎回の授業で具体的に説明する。事前・事後合わせて2時間の学習を求める。		
履修上の注意			
テキスト			
参考文献			

科目名	心理実践実習 I	副題	
担当者	伊東 秀幸・伊東 正裕・渡邊 由己・寺沢 英理子・小山 望・筒井 順子・温泉 美雪 五島 史子・櫻井 優太・新井 彩加		
開講期	後期	単位数	1 単位 配当年次 1 年次
授業の概要	本科目の開講時期に配属される実習先において、心理に関する支援を要する者等に対して、現場の指導者とともに心理に関する支援の実践を行う。なお、保健医療機関（病院または診療所等）での実習を必須とし、それ以外に以下の4分野から最低2分野以上での実習を義務付ける。他の4分野とは、福祉、教育、司法、産業・労働であり、3分野以上の選択は、心理実践実習Ⅱ・Ⅲと調整する。		
授業のねらい ・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理支援対象者に対する以下の技術と知識を修得し活用出来る：コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援 ・支援対象者の理解とニーズを把握し支援計画を作成出来る ・支援対象者へのチームアプローチが出来る ・多職種連携や地域連携が出来る ・公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解し説明出来る 		
授業の方法・授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・設定された実習計画にしたがい、学外施設、機関、病院等で現場指導者の指導と管理の下、実習をおこなう。 ・実習生はこれまで身につけた知識や技術、学部レベルの実習で学んだことを基礎として、上記到達目標を達成するため見学だけではなく、支援対象者への支援を実践しながら実習をおこなうこと。 ・現場指導者による指導のほか、「心理実践実習指導1」による実習前、実習中、実習後の指導もおこなうので、こちらへの参加も必須である 			
期末			
授業に関する 連絡	でんでんばんによる通知機能を用いた連絡の他、実習中の緊急事態に備えて携帯電話、メール等の活用もおこなう。		
評価方法 及び評価基準	現場指導者の評価、実習前・実習中・実習後の指導による評価、課題レポート等の評価により総合的におこなう。		
事前・事後 学習の内容	毎回の実習前にはその回の計画をよく確認し、実習後には実習記録を書きながら十分な振り返りをおこなうこと。		
履修上の注意	他施設・機関等の協力により実施出来ることである。実習先に迷惑をかける態度は厳しく指導する。場合によっては実習中止になることもあるので注意すること。		
テキスト			
参考文献			

科目名	心理実践実習Ⅱ	副題	
担当者	伊東 秀幸・伊東 正裕・渡邊 由己・寺沢 英理子・小山 望・筒井 順子・温泉 美雪 五島 史子・櫻井 優太・新井 彩加		
開講期	前期	単位数	1単位 配当年次 2年次
授業の概要	本科目の開講時期に配属される実習先において、心理に関する支援を要する者等に対して、現場の指導者とともに心理に関する支援の実践を行う。なお、保健医療機関（病院または診療所等）での実習を必須とし、それ以外に以下の4分野から最低2分野以上での実習を義務付ける。他の4分野とは、福祉、教育、司法、産業・労働であり、3分野以上の選択は、心理実践実習Ⅰ・Ⅲと調整する。		
授業のねらい ・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理支援対象者に対する以下の技術と知識を修得し活用出来る：コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援 ・支援対象者の理解とニーズを把握し支援計画を作成出来る ・支援対象者へのチームアプローチが出来る ・多職種連携や地域連携が出来る ・公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解し説明出来る 		
授業の方法・授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・設定された実習計画にしたがい、学外施設、機関、病院等で現場指導者の指導と管理の下、実習をおこなう。 ・実習生はこれまで身につけた知識や技術、学部レベルの実習で学んだことを基礎として、上記到達目標を達成するため見学だけではなく、支援対象者への支援を実践しながら実習をおこなうこと。 ・現場指導者による指導のほか、「心理実践実習指導Ⅱ」による実習前、実習中、実習後の指導もおこなうので、こちらへの参加も必須である 			
期末			
授業に関する連絡	でんでんぱんによる通知機能を用いた連絡の他、実習中の緊急事態に備えて携帯電話、メール等の活用もおこなう。		
評価方法及び評価基準	現場指導者の評価、実習前・実習中・実習後の指導による評価、課題レポート等の評価により総合的におこなう。		
事前・事後学習の内容	毎回の実習前にはその回の計画をよく確認し、実習後には実習記録を書きながら十分な振り返りをおこなうこと。		
履修上の注意	他施設・機関等の協力により実施出来ることである。実習先に迷惑をかける態度は厳しく指導する。場合によっては実習中止になることもあるので注意すること。		
テキスト			
参考文献			

科目名	心理実践実習Ⅲ	副題	
担当者	伊東 秀幸・伊東 正裕・渡邊 由己・寺沢 英理子・小山 望・筒井 順子・温泉 美雪 五島 史子・櫻井 優太・新井 彩加		
開講期	後期	単位数	1単位 配当年次 2年次
授業の概要	本科目の開講時期に配属される実習先において、心理に関する支援を要する者等に対して、現場の指導者とともに心理に関する支援の実践を行う。なお、保健医療機関（病院または診療所等）での実習を必須とし、それ以外に以下の4分野から最低2分野以上での実習を義務付ける。他の4分野とは、福祉、教育、司法、産業・労働であり、3分野以上の選択は、心理実践実習Ⅰ・Ⅱと調整する。		
授業のねらい ・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理支援対象者に対する以下の技術と知識を修得し活用出来る：コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援 ・支援対象者の理解とニーズを把握し支援計画を作成出来る ・支援対象者へのチームアプローチが出来る ・多職種連携や地域連携が出来る ・公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解し説明出来る 		
授業の方法・授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・設定された実習計画にしたがい、学外施設、機関、病院等で現場指導者の指導と管理の下、実習をおこなう。 ・実習生はこれまで身につけた知識や技術、学部レベルの実習で学んだことを基礎として、上記到達目標を達成するため見学だけではなく、支援対象者への支援を実践しながら実習をおこなうこと。 ・現場指導者による指導のほか、「心理実践実習指導Ⅲ」による実習前、実習中、実習後の指導もおこなうので、こちらへの参加も必須である 			
期末			
授業に関する連絡	でんでんばんによる通知機能を用いた連絡の他、実習中の緊急事態に備えて携帯電話、メール等の活用もおこなう。		
評価方法及び評価基準	現場指導者の評価、実習前・実習中・実習後の指導による評価、課題レポート等の評価により総合的にこなう。		
事前・事後学習の内容	毎回の実習前にはその回の計画をよく確認し、実習後には実習記録を書きながら十分な振り返りをおこなうこと。		
履修上の注意	他施設・機関等の協力により実施出来ることである。実習先に迷惑をかける態度は厳しく指導する。場合によっては実習中止になることもあるので注意すること。		
テキスト			
参考文献			